



令和8年8月1日 294号
医療法人社団幸信会
青葉メディカル・青葉病院・ウエル青葉
滋賀県東近江市青葉町 1-46



毎日暑い日が続いていますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

夏といえば花火。今年もあちこちで花火大会が行われていますが、もうご覧になりましたか？毎年恒例のびわ湖大花火大会は今年でなんと 40 周年を迎えるそうです。昔は天津まで見に出かけましたが、混雑と暑さに負けて最近はテレビで鑑賞しています。

ところで花火はなぜカラフルな色で光るのでしょうか？そんな疑問がわいたので少し調べてみることにしました。



花火の色は金属が燃えるときの炎色反応という化学反応を利用しています。炎の色といえば赤色がいちばん浮かびますが、金属の種類によって炎の色は変わります。ストロンチウムは赤、ナトリウムなら黄、バリウムは緑、銅は青で、これらを混ぜ合わせ色合いを作るのだそうです。また強い白は炎色反応ではなくアルミニウム、マグネシウムの化合物を使うとか。

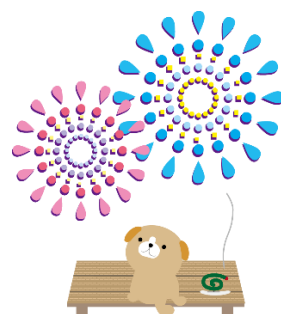
一般的な打ち上げ花火には大きな花火玉の中に 2 種類の火薬が入っています。一つは上空で花火玉を割るための火薬、もう一つが丸い粒状の「星」と呼ばれる火薬で、この「星」が花火の光りの一つずつとなり様々な色を出します。この「星」の中に含まれた金属が上空で火薬による炎色反応を起こし、金属の種類によって赤や青などの色を出すのだそうです。

花火の起源については諸説あるそうですが、一般的には古代中国の「狼煙（のろし）」がルーツとされています。狼煙とは煙による通信手段で、古代日本でも使用されていました。ですが、狼煙からどうやって観賞用の花火へ発展したのかその経緯ははっきりしていないそうです。

日本の花火は鉄砲と火薬の伝来から始まり、江戸時代に発展しました。花火といえば「たーまーやー」「かーぎーやー」の掛け声が有名ですね。「玉屋」「鍵屋」は江戸の花火師の屋号で「玉屋」は「鍵屋」からのれん分けした店でした。今も当時の掛け声が残るほど大人気だったのですね。そのころの花火は赤色の炎しかありませんでしたが、明治以降技術の発展と新しい化学薬品が導入されるようになり、現在の色とりどりに光る花火が見られるようになりました。

このように発展した花火ですが、コロナ禍以降、花火大会の中止が相次いでいるとか。費用や人手不足、花火の燃えカス問題、安全対策の調整など様々な理由があるそうです。また酷暑による時期の変更や、花火とともにドローンショーが行われるところもあって、花火大会は変化する時代になったのかもしれません。

夏の終わりの花火はなんとなくさみしいものですが、さまざまな思い出とともに長く心に刻まれます。久しぶりにお庭で花火、というのもいいかもしれませんね。



(参考：キヤノンサイエンスラボ・キッズ Gakken×朝日新聞キッズネット 東都のれん会 HP 他)

青葉メディカル 外来診療のご案内

■内科（循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科）

■脳神経内科



『内科』 担当医師

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	中村	木村 山口	塩澤	塩澤	中村 山口	塩澤 中村	—
15:00~18:00	山口	塩澤	中村	—	塩澤	—	—

『脳神経内科』 担当医師

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	—	—	徳満	—	—	—	—
15:00~18:00	徳満	—	徳満	—	徳満	—	—

●予防接種（带状疱疹、肺炎球菌など）

●健康診断（個人・企業）

●がん検査（マイシグナルスキャン、アミノインデックス） *血液や尿による検査

●胃カメラ（経鼻内視鏡）

●認知症外来

●痙攣外来

●禁煙外来

●インターネット・自動音声電話による「時間予約サービス」を行っています。

待ち時間短縮や感染予防につながりますのでご活用ください。

詳細は、当院ホームページ「青葉メディカル」で検索、
またはお問い合わせください。 ☎0748-22-5000





ウェル青葉



今年も灼熱の夏がやってきました。
施設の中でも夏を感じて頂いてます！切った瞬間、あま〜いスイカの香りがひろがります。味も格別甘くてみなさま大満足です♥



夕暮れデイサービス

7月の壁紙です。朝顔が咲く時期で清涼感がありますね✧
風鈴と花の色は利用者様が塗って下さいました✿

一つ一つ丁寧に利用者様が折ってリースの形に綺麗に仕上げてくださいました



7月のレクリエーションでカラオケを楽しんでいる様子です(^.^♪



ご姉弟で一緒に歌っている様子が仲睦まじいですね(*'▽')



ウェル通所リハビリ



昔からの夏バテ防止ドリンク

飲む点滴「甘酒」



今年の夏も暑いといわれていますが冷房もない昔、暑さを乗りきるための「夏バテ防止ドリンク」として大人気だったものがあります。**冷やし甘酒**です。平安時代から存在し、特に江戸時代にはさっぱりとショウガ汁を入れて飲むことが江戸っ子に好まれたようです。

甘酒は寒い冬に温めて飲むのが主流ですが、冷やしてもおいしく飲むことができます。アミノ酸、ビタミンB群などたくさんの栄養成分と大量のブドウ糖を含み、消化吸収がよいことから「飲む点滴」とも言われています。食欲がないときの1つの手段かもしれません。(食事制限等がある方は医師に相談してください)

3病棟にてピアノの演奏会を開催!!
職員が演奏する音楽に耳を傾けつつ優雅なお昼ご飯…
好評につき、次回もどうぞ期待!!

青葉病院



3病棟では聞きたい音楽、患者様に聞いてほしい音楽を募集しています。

- ・若い頃に聞いていた音楽
- ・よく歌っていた歌
- ・好きな歌手
- ・家族との思い出の曲

リクエストカードをもとに来月より病棟にて流させていただきます。皆様の思いをお聞かせください。

